

令和6年度第2回地域福祉活動計画策定・推進評価委員会 会議録（要旨）

1 開催日時

令和6年9月9日（月）午後6時30分～午後8時30分

2 開催場所

練馬区役所 地下多目的会議室

3 議事要旨

(1) 事務局長挨拶

事務局長より挨拶

・委員のみなさまからご意見をいただき、ようやく第6次地域福祉活動計画（以下、第6次計画）のあらましを本日、お示しできることになった。読みやすい計画になると期待している。

・本日は、社協職員のオブザーバーが多く参加している。事務局と委員のみなさまの力を合わせ第6次計画を作成していきたい。本日も忌憚のないご意見をいただきたい。

(2) 配付資料確認

・資料2 『第6次地域福祉活動計画 説明会』で、12/26の会場が光が丘となっているが、石神井区民交流センターに修正していただきたい。

（これより進行を委員長に交代し、議題に沿って進行。）

(3) 練馬区地域福祉計画進捗状況報告

委員より口頭報告。

・練馬区地域福祉計画推進委員会において推進委員からいただいたご意見をいくつか紹介する。

施策1：区民との協働と地域の支え合いを推進する

町会・自治会、民生児童委員や保護司といった活動の担い手への支援、居場所、社会参加事業への取り組みなどを位置づけている。

「町会などにつながっていない方に対して活動内容が伝わるような取り組みや参加しやすくなる取り組みが必要。」

「保護司のみなさんが安心して活動できるよう様々な機関が協力できると良い。」

「地域活動が活性化するには、地域の活動者を支援する地域福祉コーディネーターや生活支援コーディネーターの存在が重要。」

施策2：誰もが安心して生活できる環境を整える

福祉サービスが使いやすくなるよう環境を整える取り組みや福祉サービスを安心して届けられるよう人材育成、事業所の指導検査の取り組み、災害時の要支援者対策が位置づけられている。

「福祉サービス人材確保のためには、事業者への運営支援や指導検査体制の充実が必要。」

「避難行動要支援対策に避難拠点訓練に携わる人へのさらなる周知が必要。」

施策3：ハード・ソフト両面からのユニバーサルデザインのまちづくりを推進する
ハード・ソフトのバリアフリーに関する取り組みが位置づけられている。

「取り組みを進めていく際、当事者の意見を聴きながら進めていく必要がある。」

「心のバリアフリーを推進し、地域の中で人材育成が必要。」

「誰もが同じ情報を得られるような情報提供や発信方法の工夫が必要」

施策4：権利擁護が必要な方への支援を充実する

認知症、障害のある方などだれもが安心して暮らし続けられるよう権利擁護に関する施策を位置づけている。

「民法改正、認知症高齢者増加に柔軟に対応できるよう成年後見制度利用促進の中核機関である権利擁護センターの体制強化が必要。」

「後見人、支援者、家族が本人を支える体制を整える必要がある。」

「権利擁護に関する多くのニーズに対応するには、成年後見制度以外の取り組みを検討する必要がある。」

・今後、いただいたご意見をもとに素案にしていく。12月から1月にパブリックコメントを実施し、区民から意見をいただき、令和7年3月に計画策定予定。

(質疑応答・意見)

なし

(4) ネリーズ交流会報告について

・動画視聴

(質疑応答・意見)

(委員長) ネリーズ懇談会の今後の予定について確認したい。

→(事務局) コロナ以前はネリーズ懇談会を年2回行っていた。今年度は2回目を、第6次計画の説明会にあてたい。

(5) 第6次地域福祉活動計画策定に向けて

① 事務局より、資料1に沿って説明。

・7-8月に委員の皆さまとディスカッションの場を設けた。何を大事にして計画を
作っていくか共有でき、意義のある機会となった。

●変更点

・P14イメージ図：柱3の参加する・活躍する→参加するに変更。説明文も若干
変更した。

・P15-16重点的な取り組み→理念に基づき取り組みを進めるためのエンジン・
推進力とのご助言をいただき、「重点的な取り組み」は「推進力」と変更した。

・P17-18体系図。取り組み項目の下にキーワードをハッシュタグで記載した。
ご意見をいただきたい。

●P19以降の取組項目の説明

・左ページは現状と課題、地域での取り組み、練馬区社協の取り組み。右側は実践、
当事者の声、エピソードのページとなっている。

・部署ごとに作成しているため、文体などに差があるかもしれない。目指す姿の表
現などについてもご意見をいただきたい。

② 委員から第2章・第3章について説明。

・2章3章を記載した。P3では、今後の超高齢化社会について、P4では、都内
社協からヒアリングしたコロナ禍に顕在化した4つの地域課題や新しく始まった重
層的支援体制整備事業について簡単に説明した。

P5では、権利擁護や災害について触れた。P6で第5次地域福祉活動計画（以下、
第5次計画）で目指していた所を示した。P7-8で成果と課題とともに第6次計画
で取り組みたいことを3つの柱とつながるように記載した。

（質疑応答・意見）

（委員長）文字が小さくないか。

→（事務局）校正を行っていく過程で業者にも入ってもらい、見やすく整えてもら
う。

（委員）この内容のままで住民のみなさんが読むだろうか。P3には高齢者につい
て触れられているが、障害者、LGBTQやマイノリティーの方もいる。他の方も
いることが示せると良い。

イラストが盛り込めると良い。P7で4コマ漫画等でメリハリをつけると見やす
くなる。情報が多い。QRコードで「詳しくはそちらを」と案内するようにしたらよ
いのでは。

→（事務局）P9は第3章を広げて見やすく割り振りたい。

（委員長）P10は空欄だが、何が入るか。

→（事務局）寄稿文を入れない状況で、今回事前資料としてお渡ししているため、
ページ割イメージで確認していただくとP10は3章の最終ページで終わることと

なっている。

●取組項目に入る前のP11-16への意見

(委員)ひとりの不幸も見過ごさないという理念があり、始まりは一本の電話から。委員が担当された2章、3章の記載は素晴らしい。委員のおっしゃるようにQRコードなどを活用し、メリハリをつけると良い。

(委員長) P11は唐突感がある。始めに何か説明の記述を入れてはどうか。

(委員長) P15-16ネリーズマインドを大切に取組んできた。盛り込んで記載してもらおうと良いと思う。

→(事務局)ネリーズマインドは大切にしてきた。加えていきたい。

(委員長) P14では、キーパーソンが完全に抜けたが。

→(事務局)第5次計画はネリーズ・地域福祉コーディネーター・キーパーソンの3者で進めてきた。ネリーズの中には地域の課題に気づき社協につないでくれる方もいる。P15-16でネリーズマインドのあるネリーズやつないでくれるネリーズとして表現していくことを考えている。

(事務局) P15-16ねりま社会福祉法人等のネットで専門性について触れるよう意見いただいた。

→(副委員長)社会福祉法人には、子ども、障害者、高齢等に特化していて専門性がある。連携することで地域の課題にも取り組むことが出来ると思う。

→(事務局)各分野ごとの法人を記載し、強みを出すか。

→(副委員長)ネリーズ・ねりま社会福祉法人等のネット・地域福祉コーディネーターの3者が推進力となったが、周りを笑顔にする赤ちゃん、暮らしやすい地域を願うネリーズ、つなぐようなネリーズがいて、頑張っている法人もいる。ネリーズ、ねりま社会福祉法人等のネット、地域福祉コーディネーターの3者のつながりは第6次計画で大事。

→(事務局)3者の記載については改めて見直していく。

(委員)

柱3参加支援の参加は、重層的支援体制整備で示されているものかと思うが、参加の主体は住民本人。支援をつけることで参加がよいことで、それをどうリードするかの話になりがちで、様々な状況の人を厳しい状況に追い込むことにつながる。多様性といわれるが、外国籍の方が参加しやすい場が十分あるか。日本語で営まれている場が多い。参加しやすい土壌ができていない。再考いただきたい。P36でさまざまな参加のかたちがある地域へ、は良い。

P17以降の記述への意見は以下の通り。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・読むところが多い。引き算を。 ・ディスレクシアの説明箇所が発達障害や活動など周辺のことを盛り込んでほしい。 ・P17のハッシュタグは良い。 ・中学生、高校生からの人材育成との視点もほしい。練馬では中学生の職場体験が根付いている。 ・表と図表をたくさん駆使し、より読みやすくしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・クリエイティブな人間に育てるには様々な体験を積むことが大切。P29記載されている取り組みがどう関係してくるのか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい事例を知ってもらいたい、団体があること、みなさん知っているDVという言葉、安心して相談できることを知ってもらうことが第一と思っている。今後、話し合っ内容を変更する予定。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・区の地域福祉計画には社協の事業を記載している。両輪で地域福祉を推進していく。区の計画と関係する箇所には区の現状も盛り込んでいただけませんか。区は、重層的支援体制整備事業について5つの事業に一体的に取り組んでおり、その一部を社協に担っていただいていること、P31災害ボランティアセンターの周知では区との協定のもとでセンターを立ち上げる役割があることなど区と協働して取り組むことは盛り込んでいただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードにひとり親が見当たらない。包括的な相談の箇所に盛り込んでどうか。 ・P37-38文章は再考したい。障害は関係なく、みなさんと一緒に生きていくとしたい。柱1と柱2と重複する所がある。柱3として記載していくのであれば、文章を再考し、変更したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・P37の「はたらく」は良い。 ・柱3の参加するで、はたらくことは社会参加の一つ。 ・P14機能としてのキーパーソンという意見が出た。ネリーズ、ねりま社会福祉法人等のネット、地域福祉コーディネーターはキーパーソンだと思う。どこかに説明を記載すると良い。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり、発達障害の方を支援している。社協職員に出会い、協力いただいた。それぞれが当事者を見守っている。みんながネリーズになり得ると実感した。3つの推進力の中のネリーズは、“見守りあう”に“優しく”、“温かく”を入れると変わるのでは。表現を膨らませると良い。 ・灯火<small>ともしび</small>の活動は伝えたいことがある。当事者の声も集めてみた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を仕事として担う人が今後、増えるとは思えない。一般人の参加を増やしていかないといけない。8月ネリーズ交流会に初めて行った。

	<p>参加するまでネリーズの取り組みを知らなかった。民生委員として、ねりま社会福祉法人等のネット、地域福祉コーディネーターは知っていた。一般の方が地域福祉の推進にどう参加したら良いかがわかりにくかったが、第6次計画では“推進力”として掲げている。こういう形で参加できるのだな、と良い形で表現できていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 2 8 の表現はもう少し工夫したい。 <p>→ (委員長) P 2 6 に民生・児童委員の表記が抜けている。入れた方がよいか。</p> <p>→ (事務局) P 2 0 に民生・児童委員の記載があり、P 2 6 には記載していないが、事務局で検討する。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老人クラブは友愛の精神で立ち上がった。悩みを分かちあって助け合おうとできた。その後、法律ができて活動が広がった。生活が厳しい状況になっている。情報を知り、学んでいく活動を続けていくことが大切。福祉は“土を耕し、種をまく”というのは理想の姿。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目次の“参加する”の表記の変更を。 ・ 認める、認め合う、包括的に受け止める、と”認める“がある。取り組み項目9を柱1に混ぜた方がこれまで大切にしてきたことにつながりやすい。 ・ 目指す姿に苦心されていた。主語は練馬区民一人ひとりか社協の職員か。委員からアイデア出しをしてあげてほしい。 ・ 2章、3章の文章を作成してみたが、作り方、見せ方を直してみたい。 ・ 3章の記述にあたり、社協から提供された膨大な資料を残したい気持ちで記載したが、目的は果たせたので記載を工夫していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かい部分、文言は事務局と一緒に考えていけると良い。 ・ 盛り込みたいことはたくさんあると思うが、網羅的は賛成しない。私にも関係あるな、ときっかけづくりをし、もっと知りたい人はこっちへ、とメリハリをつけてもよい。

(委員長) 意見があれば事務局に伝えてほしい。

(6) 地域福祉活動計画説明会について

事務局より、資料2に沿って説明。

- ・ 新しい試みとしてオープンハウスでの開催も企画している。詳細はこれから検討していく。ご意見をいただきたい。
- ・ 委員のみなさまにも参加いただき、ご協力をお願いしたい。9/30(月)までにメール、もしくは電話で事務局までご連絡いただきたい。

(質疑応答)

(副委員長) オープンハウスはどういうやり方か。

→（事務局）2時間の時間帯の中で例えば、パネル展示や動画を流し、自由に入退りしていただいて、気になった点については、その都度、事務局から説明させていただく方式をとっていただけらと思う。

(7) まとめ

（副委員長）どのページからもすごく考えてまとめた苦心の跡がわかる。委員と意見を交わし作成していくプロセスは大事。計画は目的ではない。ひとりの不幸も見逃さない地域をつくることが目的であることを改めて感じた。“課題をどう解決するか”という大事なことが待っている。エネルギーを集中させなくてはいけない。計画を作ることで整理され、少しずつ見えてくることもある。

5 次回日程

日時：令和6年11月21日（木） 午後6時30分～

場所：練馬区役所地下 多目的会議室